



仲  
立  
書  
大  
分  
三  
百  
三  
十  
大  
隊

戰史資料

獨立歩兵第三百三十六隊(ハネ島)

獨立歩兵第三百三十六隊附

附軍少尉

後藤喜一郎

一編成裝備關係

一 自前部隊及關係部隊ノ編成人員兵器彈藥別表第一ノ如シ

二 職員表(將校以上)別表第二ノ如シ

三 人員兵器等ノ増減ハ全期間ノ通シ大ニ變化ナシ

二部隊履歴概要

昭和十九年六月四日軍令陸甲第五十八号ニ據ル臨時編成(編成改正)第二百七十八次復員下令。六月八日獨立歩兵第三百三十六隊ノ編成完結。六月十日「ヤラ」島ニ前進ノ為「サイパン」港出港。六月十三日「ヤラ」島東北方約五。哩ニ於テ戰鬥ニ參加。六月十七日「ヤラ」港入港不能ノ為「ハラ」諸島「マラカ」

島上陸同時ニ第十四師團長指揮下ニ入ル。六月十八日「マラカ」島ニ位置直ニ集團機動予備隊トシ。六月三十日集團命令ニ基キ「コロ」島ニ前進「コロ」地區隊長長合所

大佐ノ指揮下ニ入ル。自七月二十五日敵機動部隊(艦載爆撃機戰鬥機)ノ空中攻撃ヲ受テ之ト交戦ス。八月二十

七日ニ「コロ」方面基地ヨリ敵大型機爆撃開始九

月二十七日集團命令ニ基キ新ニ「コロ」「アラカバサン」マラ

カシ及其ノ周邊當島嶼ノ守備ヲ命ゼラル。一

昭和二十年九月十日「コロ」島ヲ米側ニ引渡スタメ「ハラ」

本島へ移駐ス。十二月二十四日内地還送ノ為米船LSTニ乗

船「ハラ」港去帆。十月廿一日昭和二十一年一月二日浦賀著

三 指揮隷屬關係其ノ變遷ノ概要  
獨立守備歩兵第十二大隊トシテ熱河省ニ於テ肅正討伐ニ參加中轉用部隊編成下令(昭和十九年四月一日)セラレ四月六日編成完結ト同時ニ混成第四十九旅團長ノ指揮

東京小津誌

下ニ入ル。昭和十九年六月八日獨立歩兵第三百二十六隊編  
成完結。同月六月十七日バライオ上陸と同時に同官ノ指  
指ヲ脱シ第十四師團長ノ指揮下ニ入ル  
四、作戰準備關係

作戰計畫ノ概要

防禦方針

第一防禦方針

守備隊ハ「コワル」アラカヤシ「マラカル」ワルクタリブル島ヲ  
固守シ敵ヲ水際ニ於テ撃滅ス

敵若シ強水ヲ上陸ラ企圖シ水際裏滅ヲ完遂シ能ハ  
サル場合ハ之ヲ陣内ニ誘致シ捕捉殲滅ス

第二指道ノ要領概要

第一時期

敵ノ其ノ舟艇群ヲ以テ海岸ニ進攻シ来ル時ハ全火力ヲ之  
集中シ水際ニ於テ之ヲ撃破殲滅ス

第二時期

敵ノ強引ニ上陸シ強行シ橋頭堡ヲ占領セントスルニ至ル  
時期ニ於テ助攻方面兵力並ニ火力ノ大部ヲ之ニ集中シ  
上陸當夜ニ於テ之ヲ撃滅ス

第三時期

敵ノ橋頭堡ヲ占領シ遂ニ陣地深ク進攻スルニ至レハ夜  
暗ヲ利用シ各方面兵力ヲ複數陣地ニ集中結主トシテ  
夜間ニ於テ肉攻斬込ニ依リ敵陣地ヲ潰滅シ之ヲ殲滅ス

防禦配備

防禦方針ニ基キ重要島ヲ「コワル」島ニ指向シ同島ニ獨立歩  
三三〇大隊主力(中隊欠)海軍砲隊第一一部及海軍  
砲台「アラカバサ」島ニ獨立歩第三三〇大隊第一中隊海  
軍航空隊海軍砲台「マラカル」島ニ曉部隊一部及海

東京小冊誌

軍砲台、ウルクター、アヒ島、海軍砲台は見張所、周  
辺島嶼に舟艇を依り機動力を有し、砲隊主力を  
配し島嶼海岸周辺に地雷水中防柵鉄條網等障  
碍物を設置し又水際主要兵器大部に依り濃密ナル  
火網を構成し敵上陸を備フ

空中依りスル攻勢に對シテ「コロル」島に「コロル」高射隊  
主力海軍高角砲隊一獨立機關砲隊「アラカバサン」  
島に一獨立機關砲隊「コロル」高射隊一部「マラカレ」  
島に一獨立機關砲隊を配し外各隊MG MAの一部を以テ  
對空射撃に任セシム

### 陣地ノ状況

「コロル」島中備に任ラ受ケ前部隊に任務ヲ継承セシ  
昭和十九年六月末に於テハ水際ニ於ケル主要兵器ノ輕掩  
蓋陣地が若干構築セラレアリシニシテ部隊ノ不眠不  
休一丸トナリテノ努力トセメント並ニ倒壊家屋資材等  
ノ適切利用ニ依リ同年末に於テハ水際ニ於ケル主要  
兵器陣地(平均ニ程度)水際水中ニ於ケル障碍物  
交通路等ヲ完成セリ

昭和二十年に入り引續キ之カ補強並ニ復舊陣地地  
下道等ノ構築ヲ實施シ同年末迄ハ「コロル」島ヲ  
全ク要塞化スヘク工事ノ順調ニ進捗シアリキ其ノ  
間敵ノ空中攻撃ニヨル被害ハ極メテ少ク若干ノ對空  
陣地ヲ破壊セラレシニナリ又之カ補修ハ極メテ至短  
時間ニ實施セラレ翌日ノ戦斗ニ備フルヲ得タリ

### 3. 軍需品ノ集積状況

補給路ハ全ク途絶シ然カモ戦ハ益々長期ニ亘ル現況  
ニ於テ軍需資材ノ集積保管ハ頗ル苦心セリ  
即チ居住施設ハ勿論軍需品ノ集積保管ハ全ク

地下トシ對爆撃ニ依ル被害ヲ未然ニ防止スル如ク又  
然レドモ湿度ノ極メテ大ナル「バライオ」ニ於テハ腐蝕喪失  
ハ免ガレ得サル所ナルモ之カ對策トシテ凡有防濕處  
置ヲ考究シ又細心ノ手入ト最大ノ努力ヲ致シ特ニ彈  
藥ノ防濕ニ苦心セル處ナリ

以テ當部隊ニ於テ軍需資材ノ損耗ハ絶無ヲ期スルヲ  
得テ保糧ノ僅少ナル前記狀況下ニ在ル「バライオ」  
於テ現地自活ノ確立ハ又緊要事ニシテ悉細ナル寸暇  
ヲ利用シ耕作ニ邁進スル一方集團作命ニ依ル全カ  
開墾ヲ實施シ「ゴロル」地區ニ於ケル猫頭地ト雖トモ  
余ス所ナリシモ成果漸ク顯ル時「バライオ」本島ニ轉進  
ヲ余儀ナクセラレ現地自活ハ極メテ困難ナル狀況ニ在リヤ  
4 訓練ノ狀況

訓練ハ主トシテ肉攻斬込ニ重矣ヲ指向シ必勝ノ信念ト下  
集團長ノ要望スル神技域ニ延到ルベク寸暇ヲ利用シ  
或ハ豪雨ヲ犯シ益訓練ヲ實施ス即チ幹部ノ肉攻斬  
込訓練教育法研究或ハ集合教育ノ神技競ハ等  
熾烈ナル闘魂ヲ振ニ敵ノ腹中ニ入り骨髓ヲモエグルノ  
訓練ヲ重ニ精到ヲ期セリ

五 戦斗ノ狀況

ノ参加ニ主要ナル作戦(戦斗)ノ概要  
「バライオ」東北約五〇〇哩附近ノ戦闘  
昭和十九年六月十日〇四〇〇「サンパン」港ヲ入港セル船團ハ翌  
十日敵艦載機ノ發見スル所トナル敵機ノ末態ハ  
至ルベシト固到ナル準備ト警戒ト下航行シアリシニ十  
三日遂ニ敵艦載機約二十機ノ執初ナル攻撃ヲ受ク  
部隊ハ機関銃輕機関銃小銃等全カヲ以テ之ト  
交戦戦斗約四十分ニ及ベリ

東京小澤

彼我損害

我戦死四名 戦傷五名

護衛艦二隻直撃受航行不能ニ陥ル

ロ中部大平洋第一次パラオ作戦参加(昭和十九年七月五日)

七月二十五日敵機動部隊出現三日間二回り空中攻撃

ヲ實施 愛來飛行場、アラカベサン水上機基地コ

ロール市街ニ對シ銃爆撃ヲナス

八月二十五日ニ至リ敵ハニューギヤ基地ヨリスル大型機ノ

爆撃ヲ開始シ連日三機外編隊ヲ以テコロール

アラカベサン著明目標ニ對シ爆撃ヲ行ヒコロール市街

ノ大部ヲ破壊焼死ス

此間部隊一部ヲ以テ對空射撃ニ任ズト共ニ益々警戒

ヲ嚴ニシツ、空襲ノ間断夜間ヲ利用シ陣地ノ強化

及決戦訓練ニ邁進ス

ハ中部大平洋第二次パラオ作戦(昭和十九年九月五日)

皆敵機動部隊出現シ一五機内外艦載機未襲

シ、パイライ飛行場、ロール砲台、カラカル等ノ

銃爆撃ヲ開始ス

九月十六日ニ至リ戦車一五ヲ有スル約一師團ノ敵ハコ

リ、ロール島ニ上陸 同島守備部隊ハ之ト激戦中トノ

情報ヲ入午ス

連日敵機ノ来攻ハ活潑ニシテ敵艦船ハパラオ周辺

ヲ游ギシ又アラカベサンコロール周辺島嶼等亦々艦

砲射撃ヲ加フ

此間部隊ハ集團命令ニ基キ新ニコロールアラカベサン

カラカル及其ノ周辺ノ守備ヲ命ゼシ 敵ノコロール地

區ニ對スル攻撃ニ至ナルヲ豫期シ之カ準備ノ完成ト

陣地ノ強化迄ニ決戦訓練ニ鋭意邁進ス

昭和十九年九月五日

ハ中部太平洋第三次ハチノ作戦(昭和二十年六月一日)敵機ノ來襲ハ晝夜ヲ通シ稍シ活発ニシテ時折コロル地區ニ對シ砲射裏ヲ實施スル共後期至リ敵ノ宣傳又ハ依ル思想崩壞ヲ企圖ス部隊ハ來襲ノ間斷ヲ利用シ銳意陣地強化ト訓練ニ邁進ス

ニ中部太平洋第四次ハラオ作戦(昭和二十年七月一日)敵機ノ來襲ハ漸ク閑散トナリ部隊ハ益々陣地ノ補強ニ邁進スルト共ニ銳意訓練ヲ實施ス

ニ機動部隊來襲状況  
イニユーギヤ方面ヨリ北北北上セル敵機動部隊ハ昭和十九年七月二十五日ヨリ三日間ニ亘リ一日平均延約二〇〇機ヲ以テ飛行場水上機基地「コロル」市街ニ對シ銃爆撃ヲナス  
口昭和十九年九月一日敵機動部隊出現「ベリム」攻奪ニ併行シ守備地區内ヘモ來襲一五〇機内外ヲ以テ主ト

トテ飛行場對空陣地「マラカル」ニ對シ執拗ニ銃爆撃

3. 敵機來襲状況

「ベリム」島上陸後ニ於ケル敵機ノ來襲状況ハ極メテ活潑執拗ニシテ一日平均延約一〇〇機ヲ算セリ

昭和二十年一月以降終戦時迄ノ守備地區内ヘノ來襲機數ハ延約九〇〇機ナリ

機種ハFuヲ主トシB24 TBF 夜間戰鬥機等ニシテ「コロル」アラカベサン「マラカル」ニ於ケル主要目標並對空陣地ニ

銃爆撃ヲ反復ス

4. 落下不時著降下者ニ對スル處置

昭和二十年五月三日蕨墜セラレタルB24ヨリノ落下不時著降下者將校一名ハ海中ニ於テ之ヲ逮捕直ニ集團司令部ニ送致ス

昭和二十年五月三日

六 給糧衛生

給糧

追送糧秣ニ依ル補給ガ十九年六月以降停止ナリタ  
ル為若干ノ集積シアリタル糧食ヲ使用シ盡シタル外殆ド  
現地自活ニ依ルノ止メナキニ至リ現地自活亦幾多辛  
酸ノ限リヲ盡シ增收獲ニ努力セルモ土質種子人  
力戰況ノ影響者ヲ受ケ意ノ如クナラス道ニ露命ヲ  
保持シ得タニ過ギス

衛生

上陸當初殆ンド全員ニデング熱ヲ發生シ見タルモ戦力ニ  
支障ヲ来セズ傳染病ハアメーバ性赤痢五名、Aバラ七名  
散發セリ脚氣ハ僅少ニ留リタルハ生野菜ニ患マレタルニ依ル  
コトニ疑似症三名發生セルハ特異事項トス  
七 終戦ヨリ歸還迄ノ行動ノ概要

九月二日現地停戦協定ニ基キ宇備地タルコロール、アラカ  
ハサン、マラカレ島ヲ米則、列後、同島ニ埋設アリシ地  
爆雷並ニ水陸機雷ノ處理ノ業ヲ實施シ九月廿日ハラ  
オ、本島ニ移駐、移駐後ハ現地自活並ニ主要道路ノ補  
修ヲ實施シ、十月二日、四日米船LSTハハニ号ニ依リハラオ  
去帆内還ス

東京小津館



別紙第一

コロール守備隊編成裝備一覽

備										表			量			人			獨立步兵第三大隊
AA	G	MG	LG	MG	BiA	"	TA	山砲	森精	計	兵	下士官	將校	曉	隊	コロール高射隊	海軍	部隊	
						47	37	砲	同員數										
三	二八	二八	二七	一一	二	二	五	五	同員數	五六	四六	八〇	二〇						
一〇〇		二〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	六〇	一〇〇	一〇〇	同員數										
				LG	MG	ZiA	TA	山砲	同員數	計	兵	下士官	將校	部	隊	コロール高射隊	海軍	部隊	
							37	砲	同員數										
						一〇	三	二	同員數	九七五	八五〇	一〇〇	約二〇						
						六〇〇	一〇〇	三〇	同員數										
									同員數	計	兵	下士官	將校	部	隊	コロール高射隊	海軍	部隊	
							射	AA	同員數										
							MA	高	同員數										
									同員數	三九〇	三五〇	約三五	五						
									同員數										
									同員數	計	兵	下士官	將校	部	隊	コロール高射隊	海軍	部隊	
LG	MW	MG	高角砲	八初砲	"	"	MA	十五初砲	同員數										
					13	25	40		同員數										
一〇〇	四	九	四	二	二	三	一	五	同員數	八六五	三五〇	五〇	約一五						
一〇〇	二〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	一五〇	四〇	同員數										

大正四年

獨立歩兵第三三〇大隊職員表(將校以上)

職	官	氏名	隊別	大	隊	本	部
隊長	大佐			副官	中尉	少尉	准尉
土井詮生	岡田茂夫	後藤備吾	吉丸要三	三森英逸	遠藤鉄彌	中尉 浜崎大三	
中尉 古原惜一	中尉 谷平良一	大尉 加藤好春	中尉 明神義澄	中尉 山崎祐三郎			
中尉 本間恭一	少尉 須藤善一郎	同 田中與三門	同 小林茂一	同 山崎祐三郎	同 牧山博次郎	同 大北正行	同 三澤範夫

陸軍



浦賀上陸地支局

昭和二十一年一月四日

史実調査参考資料報告

摘要

所在地	所属部隊	職官 姓名	終戦時 の記述
南洋群島バヤオ島	神歩第三三〇大	陸軍軍醫大尉 遠藤鐵弥	終戦時 の記述
支那事変以 降ニ於テ自 己略歴	昭三三三三補完部隊陸軍軍醫 一五三三補完一五附 一五三三滿洲警備 一五三三 一五三三 一五三三	中島大平洋作戦ニ参 加 昭二〇五一神独歩三三〇 大	職 更及 五 タル 参加 戦 斗 名 ヲ 記 ス
所屬部隊 編成年月日 及編制整備 概要	編成年月日 昭和十九年八月 編制整備概要 異		最後 所屬 部隊 ヲ 主 ニ 尚 ソ 以 テ 記 ス
所屬部隊 戰經過 概要	昭一九三七一七ヨリ南洋群島バヤオ諸島 コロル島ニテ警備ノ任ジ日絶向キ ニシテ 陸軍期リツマアリ		所屬 部隊 ノ 概 況 ヲ 記 ス
終戦(又ハ事 ノ戦終了) 後ノ状況	終戦後コロル島米側ニ渡シバヤオ本島 瑞穂村ニ移駐シ博命肉滿破獲前 所修理 爆彈処理等ノ業務ヲシテ 行ハシ		帰 還 輸 送 ノ 概 況 ヲ モ 併 記 ス
帰郷(又ハ運 送)先	福島縣 (本籍地)		
其他ノ参 考事項	ナシ		

浦賀上陸地支局

昭和二十年一月四日

史実調査参考資料報告

摘要

所在地

南洋群島、バネ諸島、ミナミ島、官陸軍軍醫大尉

所属部隊

獨逸歩兵第三十三大隊 氏名 濱崎 不二三

支那事変以降ニ於ケル自

昭一三四三補野砲兵第四二二聯隊付  
昭一九四七補第三四師團司令官部付  
昭一九五七、バネ島西北方約百七十里附近、戦斗ニ参加  
昭一九六八、バネ島東北方約百三十里附近、戦斗ニ参加  
昭一九六八、バネ島東北方約百三十里附近、戦斗ニ参加  
昭一九六八、バネ島東北方約百三十里附近、戦斗ニ参加

所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要

独歩才三百三十六隊  
編成(年月日) 昭和十九年六月八日

所屬部隊ノ戦經過ノ概要

昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
自昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
至昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加

所屬部隊ノ戦經過ノ概要

昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
自昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
至昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加

所屬部隊ノ戦經過ノ概要

昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
自昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
至昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加

所屬部隊ノ戦經過ノ概要

昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
自昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
至昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加

所屬部隊ノ戦經過ノ概要

昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
自昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
至昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加

所屬部隊ノ戦經過ノ概要

昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
自昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
至昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加

所屬部隊ノ戦經過ノ概要

昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
自昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
至昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加

所屬部隊ノ戦經過ノ概要

昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
自昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
至昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加

所屬部隊ノ戦經過ノ概要

昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
自昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
至昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加

所屬部隊ノ戦經過ノ概要

昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
自昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
至昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加

所屬部隊ノ戦經過ノ概要

昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
自昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加  
至昭一九六三、バネ島東北方約百五十里附近、戦斗ニ参加

浦賀上陸地支局

昭和三十一年一月廿四日

史実調査参考資料報告

摘要

所在地

南緯部島ハノ島

職官

三井英造

終戦時ノモ  
ウ記ス

所属部隊

独立歩兵第三〇大隊

氏名

三井英造

職ノ変更及  
主ナル参加  
戦斗名ヲ記  
ス

支那事変以  
降ニ於テ自  
己ノ略歴

支那事変参加後歸国後三井英造氏ハ昭和二十一年一月  
陸軍省附設支那支隊中隊長ニ任ぜられ其後支隊長ニ任ぜ  
られ支隊本部ニ在りしニ至リ  
昭和三十一年一月廿四日

所属部隊ノ  
編成年月日  
及編制裝備  
ノ概要

独立歩兵第三〇大隊

中隊一ノ中隊

昭和三十一年一月廿四日

裝備(支隊本部) 三八式 九九式 九九式 九九式

最後ノ所属  
部隊ヲ主ニシ  
尚ソノ以テ  
所属部隊ノ  
介ヲモ概記  
ス

所属部隊ノ  
戦經過ノ概  
要

昭和三十一年一月廿四日 南緯部島ハノ島

南緯部島ハノ島ニ在りしニ至リ  
昭和三十一年一月廿四日

終戦(又ハ主  
力ノ戦半終了)  
後ノ状況

南緯部島ハノ島ニ在りしニ至リ  
昭和三十一年一月廿四日

終戦(又ハ主  
力ノ戦半終了)  
後ノ状況

南緯部島ハノ島ニ在りしニ至リ  
昭和三十一年一月廿四日

終戦(又ハ主  
力ノ戦半終了)  
後ノ状況

南緯部島ハノ島ニ在りしニ至リ  
昭和三十一年一月廿四日

終戦(又ハ主  
力ノ戦半終了)  
後ノ状況

南緯部島ハノ島ニ在りしニ至リ  
昭和三十一年一月廿四日

其ノ他ノ参  
考事項

南緯部島ハノ島ニ在りしニ至リ  
昭和三十一年一月廿四日







浦賀上陸地支局

昭和二十一年一月四日

史実調査参考資料報告

摘要

所在地

南洋群島パラオ島

職官

第一中隊附  
陸軍少尉  
須藤喜一郎

終戦時ノ  
ウ記ス

支那事変以  
降ニ於ケル自  
己ノ略歴

獨之歩兵第三百三十六大隊

氏名

須藤喜一郎

職ノ変更及  
五ナル参加  
戦ノ名ヲ記  
ス

前所属部隊  
編成年月日  
及編制裝備  
ノ概要

昭一七一現役兵トシ第一〇五聯隊入隊。昭一七八  
部候補生。自昭一八八至昭一九四熱河有附近  
ノ討代参加。自昭一九四至昭二〇八中部大平  
洋パラオ作戦ニ参加。昭二〇三少尉任官

職ノ変更及  
五ナル参加  
戦ノ名ヲ記  
ス

前所属部隊

獨立歩兵第三百三十六大隊

編

本部一一般中隊三

裝

機関銃中隊一歩兵砲中隊一

現

MG 一 一 LG 二七 MW 二八

前所属部隊ハ昭和十九年四月七日北安去奉四月十四日

峯山出帆五日中日館山出帆同十七日カハ島ノ西北方  
約一七〇哩ノ戦ニ参加同月十九日サイパン島ニ上陸  
守備ヲス

最後ノ所属  
部隊ヲ主ニシ  
尚ソ以テ  
所属部隊ノ  
介ヲモ概記  
ス

終戦(又ハ主力  
ノ戦ヲ終了)  
後ノ状況

九月二日現地停戦協定ニ基キ守備地タル「ロロール」

「アラカベサレ」マラカル「ラ米側」引渡ス「埋設」  
アル地爆雷並水際機雷ノ處理九月十日ハチ  
本島ニ移駐十二月二十四日米船LS「八八」号ニ依リ  
入才出帆昭和二十一年一月百浦賀ニ到着

帰還輸送  
ノ状況ヲモ  
併記ス

其ノ他ノ参考  
事項

山形縣

山形縣

山形縣

山形縣

山形縣



浦賀上陸地支局

昭和二十一年一月四日

史実調査参考資料報告

摘要

所在地	南進隊島パラオ島	職官	後藤有吉	終戦時ノモ ウ記ス
支那事変以降ニ於ケル自 己ノ略歴	<p>昭和十八年十一月一日任陸軍少尉 昭和二十年八月二十日任陸軍中尉 昭和十八年五月滿洲國北安ニ在リテ治安軍ニ 任ジ 昭和十九年四月陸軍部隊編成命令(ハニノ五ノ八連)</p>	氏名	後藤有吉	職ノ変更及 主ナル参加 戦斗名ヲ記 ス
所屬部隊ノ 編成年月日 及編制整備 ノ概要	<p>前所屬 独立守備隊第百三十三大隊 第一師團 第一師團第一旅団第一隊 第一師團第一旅団第一隊 第一師團第一旅団第一隊</p>	職官	後藤有吉	最後ノ所屬 部隊ヲ主ニシ 尚ソノ以テ 所屬部隊ノ 介テモ概記 ス
所屬部隊在 戰經過ノ概 要	<p>前所屬ノ昭和十九年四月五日付ノ命令ニ依リテ 第一師團第一旅団第一隊ニ在リテ 昭和十九年四月五日付ノ命令ニ依リテ 第一師團第一旅団第一隊ニ在リテ 昭和十九年四月五日付ノ命令ニ依リテ 第一師團第一旅団第一隊ニ在リテ</p>	職官	後藤有吉	終戦時ノモ ウ記ス
終戦(又ハ主力 ノ戦斗終了) 後ノ状況	<p>昭和十九年四月五日付ノ命令ニ依リテ 第一師團第一旅団第一隊ニ在リテ 昭和十九年四月五日付ノ命令ニ依リテ 第一師團第一旅団第一隊ニ在リテ 昭和十九年四月五日付ノ命令ニ依リテ 第一師團第一旅団第一隊ニ在リテ</p>	職官	後藤有吉	終戦時ノモ ウ記ス
帰郷(又ハ通 絡)先	<p>山形縣</p>	職官	後藤有吉	終戦時ノモ ウ記ス
其他ノ参考 事項	<p>ナシ</p>	職官	後藤有吉	終戦時ノモ ウ記ス



浦賀上陸地支局

昭和二十一年一月四日

史実調査参考資料報告

摘要

所在地

南洋群島、公家諸島、今島

職官 中隊長 (特九) 陸軍少尉 加村好春

終戦時ノ一ラ記ス

所屬部隊

獨逸軍第三百大隊

氏名

支那事変以降ニ於テ自

支那事変以降ニ於テ自

昭和十四年七月、獨逸軍第三百大隊に編入、南洋群島に展開。昭和十九年七月、獨逸軍第三百大隊が南洋群島に展開し、公家諸島に上陸。昭和二十年四月、公家諸島に上陸し、今島に上陸。昭和二十一年一月、公家諸島に上陸し、今島に上陸。昭和二十一年一月、公家諸島に上陸し、今島に上陸。

戦斗名ヲ記

所屬部隊

編成年月日

概要

編成年月日

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

概要

浦賀上陸地支局

昭和二十五年一月四日

史実調査参考資料報告

摘要

所在地

南洋群島パラオ島

職官

中隊附 中尉

終戦時ノモ

所属部隊

独立歩兵第三大隊

氏名

牧山博治郎

ノヲ記ス

支那事変以降ニ於テ自

昭和二十二年二月一日歩兵第一聯隊ニ属(滿洲球兵)  
九月一日甲種幹部候補生ヲ命ゼル  
二十七年四月一日前橋予備士官学校卒業独立歩兵隊  
昭和十九年七月日独立歩兵第三大隊ニ編成ス

職ノ変更及  
至ナル参加  
戦ノ名ヲ記  
ス

所属部隊ノ  
編成年月日  
及編制整備  
ノ概要

前所属部隊 独立歩兵第三大隊  
為所属部隊 獨立歩兵第三大隊  
編成本部(一般中隊) (M) (A)  
裝備(守備用)  
RIA (A) (TA) (S) AA (M) (L) (M) (W) (D)

所属部隊ノ  
戦經過ノ概  
要

前所属部隊 昭和十九年四月七日北安堂發射高射砲台占領 五月四日  
船山占領 八月七日占領 島西方面ニ哩附近 戦ニ参加 八月  
十九日占領 島上陸守備ヲス

最後ノ所属  
部隊ヲ主ニ  
尚ソ以テ  
所属部隊ノ  
介テモ概記  
ス

終戦(及主力  
ノ戦ヲ終了)  
後ノ状況

終戦後ノ状況  
九月一日現地停戦協定ニ基キ守備地ニシテ  
パラオ島ニ米國ノ引渡シタル施設ニアル地爆雷並ニ水際機  
雷ノ處理ヲ實施シ九月十日パラオ本島移住 駐十一月十四日  
昭和二十五年一月二日浦賀ニ到着

帰還輸送  
ノ状況ヲモ  
併記ス

帰郷(又ハ運  
送)ノ先

神奈川県

其他ノ参  
考事項







浦賀上陸地支局

昭和二十一年一月四日

史実調査参考資料報告

摘要

所在地

南洋群島、パラオ島

職官

獨立歩兵第三白三大隊 機關銃隊小隊長 藤田中尉大北正行

終戦時ノ一ノ記ス

支那事変以降ニ於テ自

支那事変以

職名

職ノ変更及

五ナル参加

所屬部隊

獨立歩兵第三白三大隊

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記

編成年月日

昭和二十一年七月七日

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記

及編制整備

前所屬部隊

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記

概要

前所屬部隊

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記

所屬部隊ノ概

前所屬部隊

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記

戦經過ノ概

前所屬部隊

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記

終戦ノ主力

前所屬部隊

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記

戦斗終了ノ

前所屬部隊

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記

戦斗終了ノ

前所屬部隊

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記

戦斗終了ノ

前所屬部隊

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記

戦斗終了ノ

前所屬部隊

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記

戦斗終了ノ

前所屬部隊

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記

戦斗終了ノ

前所屬部隊

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記

戦斗終了ノ

前所屬部隊

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記

戦斗終了ノ

前所屬部隊

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記

戦斗終了ノ

前所屬部隊

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記

戦斗終了ノ

前所屬部隊

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記

戦斗終了ノ

前所屬部隊

職ノ変更及

五ナル参加

戦斗名ヲ記





浦賀上陸地支局

昭和二十一年一月四日

史実調査参考資料報告

摘要

所在地

南洋群島パプア諸島ロロ島

職官

澤 範夫

終戦時ノモ  
ウ記ス

所属部隊

獨立歩兵第三十三大隊

氏名

澤 範夫

職ノ変更及  
五ナル参加  
戦斗名ヲ記  
ス

支那事変以  
降ニ於ケル自  
己ノ略歴

昭和十八年十二月一日在支那。獨立歩兵第三十三大隊附屬。南洋群島パプア諸島ロロ島ニ移駐。同年六月十七日ロロ島ニ上陸。同年八月二十日任中尉。

所属部隊ノ  
編成年月日  
及編制裝備  
ノ概要

一前所属部隊 獨立歩兵第三十三大隊  
一親許層級 獨立歩兵第三十三大隊  
一場成年月日 昭和十九年六月八日(南洋地サパ島)  
一編制 一本部(一) 一般中隊(三) 機関銃中隊(一) 砲兵中隊(一)  
一裝備(字備向) RIA(一) WA(一) TA(三) AA(三) MG(七) LG(七)

WW(六)

所属部隊在  
戰經過ノ概  
要

一前部隊 昭和十九年四月七日北安島出發。十四日釜山出帆。五月四日  
館山出帆。同月七日クア島西北方一七。哩附近、戦斗ニ参加ス。  
加同月十九日サパ島ニ上陸。中隊ヲ率ヘテ、

最後ノ所属  
部隊ヲ主ニ  
尚ソ以テ  
所属部隊ノ  
分テモ概記  
ス

一親許層級 獨立歩兵第三十三大隊  
一場成年月日 昭和十九年六月八日(南洋地サパ島)  
一編制 一本部(一) 一般中隊(三) 機関銃中隊(一) 砲兵中隊(一)  
一裝備(字備向) RIA(一) WA(一) TA(三) AA(三) MG(七) LG(七)

終戦(又主力  
ノ戦半終了)  
後ノ状況

昭和二十年九月二日親許層級ニ基キテ南洋群島ニ移駐。同年九月十日ロロ島  
マラカパ山マラカル島ヲ半側ニ引渡シ、タメ埋設シタル地雷ヲ  
並ニ水除機雷ノ處理ヲ實施シ、同年九月十日ロロ島  
ニ移住。同年十二月十四日半船LS188ニ乗リ、ロロ島  
昭和二十一年一月二日浦賀ニ到着

帰還輸送  
ノ状況ヲモ  
併記ス

帰郷(又八連  
絡)先

山形縣

其他ノ参  
考事項



関東上陸地支局

(昭和二十一年)

史實調査参考資料報告

稿正

所在地	パラオ本島	職官	陸軍中尉	本間 泰一	終戦時ノ モヲ記ス
所屬部隊	独立歩隊第三大隊	氏名	職変更 及主ナル参 加戦斗名 ヲ記ス		
支那事変 以降於テ 自己經歷	昭和十九年十月日官軍南洋北支各地に警備 十九年西南方面所屬部隊に配属シ四月釜山に参 加戦斗名ヲ記ス 島嶼に收容シ六月日官軍上陸南洋各島守備 昭和十九年六月日官軍南洋各島守備 昭和十九年六月日官軍南洋各島守備 昭和十九年六月日官軍南洋各島守備				
所屬部隊 編成年月 日及編制 裝備 概要	昭和十九年六月日官軍南洋各島守備 昭和十九年六月日官軍南洋各島守備 昭和十九年六月日官軍南洋各島守備 昭和十九年六月日官軍南洋各島守備				
所屬 部隊 作戦 経過 概要	パラオ上陸後敵軍の口ハ島守備 ニ就キ 日夜敵軍の攻撃ヲ受ケ				
終戦(又ハ 主力戦 斗終了) 後ノ状況	同日ニ敵軍の攻撃ヲ受ケ島守備 ニ就キ 日夜敵軍の攻撃ヲ受ケ 同日ニ敵軍の攻撃ヲ受ケ島守備 ニ就キ 日夜敵軍の攻撃ヲ受ケ				
帰郷 (又ハ連絡)	山形縣				
其他 参考事項	帰還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス				